**パラグアイ定期報告（内政・外交概況2014年1月分）**

**概要**

**（１）内政**

●１５日，１７日,２１日,１月１日開始した公共バス料金の値上げ（２，０００グアラニから２，４００グアラニ）に反対する市民団体が旧市街等において抗議デモを実施した。

●２２日，カルテス大統領は，複数の議員が大統領再選のための憲法改正を求めている件につき，再選に向けた憲法改正を議論する時期では無い旨述べた。

●２５日付当地主要紙は，政府が，カルテス大統領の指示により，今後，最低賃金の見直しを検討する見通しである旨報じた。

●２８日，ロハス下院議員（リベラル党）は，自動車購入・販売税（１０％）及びバイク購入・販売税（５％）を導入する法案を議会に提出した。

●３０日，ハビエル・サカリアス・イルン元エステ市長が率いるコロラド党派閥は，ベラスケス上院議長派閥と同盟を結ぶことで合意に至った旨発表した。

**（２）外交**

●３日,政府は同日付外務省プレスリリースを以て，サハラ・アラブ民主共和国との国交を断絶する旨発表した。

●９日，ロイサガ外相は，国際場裏におけるパラグアイのプレゼンスを増大させることが２０１４年の外務省の優先事項であり，カルテス大統領の欧州及びアジアへの訪問を重視している旨述べた。

●同日，ロイサガ外相は，パラグアイ政府が中華人民共和国政府と外交関係を樹立する可能性についての記者団の質問に対し，右を否定した。

●１４日，ロイサガ外相は，当国外務省において，ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の批准書を寄託した。

●１６日，当国を訪問したフィゲイレード・ブラジル外相は，大統領府において，カルテス統領を表敬した。

●２４日，ウルグアイを訪問したロイサガ外相は，ウルグアイ外務省において，アルマグロ外相との会談を行った。

●２８日，カルテス大統領は，第２回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会合出席のため，キューバを訪問した。

**１　内政**

**（１）２０１３年成立法案**

●２０１３年に議会にて成立した法案は１２９本，そのうち，下院提出法案が６９，上院提出法案が３５本，政府提出法案が２３本，最高裁提出法案が２本となった。カルテス大統領が拒否権を発動したのは５本で，そのうち，２本が廃案,残りの３本は２０１４年３月以降に議会において再審議される予定。

**（２）自動車・バイク購入・販売税導入にかかる法案**

**●**２８日，ロハス下院議員（リベラル党）は，自動車購入・販売税（１０％）及びバイク購入・販売税（５％）を導入する法案を議会に提出した。同法に基づく税収は，厚生省を通じ，公共医療機関における緊急医療体制の改善に割り当てられるとされている。

**（３）最低賃金改定に向けた動き**

●２５日付当地主要紙は，政府が，カルテス大統領の指示により，今後，最低賃金の見直しを検討する見通しである旨報じた。現在の最低賃金は，Gs.1,658,232であり，最低賃金の見直しは，インフレ率が１０％に達した際に検討されることとなっている。

**（４）大統領再選を可能にするための憲法改正に向けた動き**

●２０日，バリオス下院議員（コロラド党）は，大統領の再選を可能とするために，憲法２２９条（大統領再選禁止を規定）の改正を行うべきである旨発言した。

●２１日，サギエル・リベラル党党首（上院議員）はパラグアイ政治の歴史において，大統領再選規定は，独裁等の最悪の結果しかもたらしてこなかったとし，憲法改正に否定的な見解を示した。

●２２日，カルテス大統領は，大統領再選のための憲法改正を議論する時期では無い旨述べた。

●２３日，ルゴ上院議員（Frente Guasu党, 元大統領）は，大統領再選に向けた憲法改正に肯定的な立場を示した。

**（５）議員の汚職を巡る動向**

●２日，検察庁は，カルドソ上院議員（リベラル党）が農牧相を務めていた２００９年～２０１２年に，青果物生産者支援のための公金を流用した疑いがあることから，議会に対し，同議員の議員特権停止を要請した。

●３日，検察庁は，議会の予算で自身の別荘管理人の給与を支払っていた可能性が浮上しているイバニェス下院議員（コロラド党）に対する議員特権停止を議会に要請した。

**（６）土地無し農民と国家警察との衝突事件**

●１５日，サンペドロ県において，土地無し農民グループ（８名）が私有農園に侵入し，農作物を窃盗したことから，警察に逮捕された。

●１７日，ワグナー上院議員（リベラル党）及びリチェル上院議院（左派連合）は，１５日にサンペドロ県において発生した上記事件について，警察側に職権乱用（不必要な武器の使用）があった旨主張した。これに対し，デ・バルガス内務相は右を否定した。

●２３日，全国農民連盟（Federacion Nacional Campesina）は，１５日にサンペドロ県において発生した事件に関し，内務省前において，デ・バルガス内相の更迭を要求するデモを実施した。

**（７）公共バス値上げに対する抗議活動**

●１５日，１日に開始された公共バス料金の値上げ（２，０００PYG→２，４００PYG）に反対する市民団体が旧市街等にて抗議デモを実施した。

●１７日，約２０名の市民団体等が，カルテス大統領の私邸前で公共バス料金の値上げに対する抗議デモを行った。

●２１日，アスンシオン国立大学生等が，旧市街のイタリア広場付近で，抗議デモを行った。

**（８）コロラド党の動向**

●２３日，カスティグリオーニ上院議員は，首都圏のコロラド党員の誕生日会において，コロラド党員は政府要職に就く能力と愛国心を兼ね備えている旨発言し，政府に対しコロラド党員の起用を要求した。

●３０日，トゥマ下院議員は，カルテス大統領に対し，コロラド党員を政府高官に起用すべきである旨主張するとともに，特にカウサラノ文化庁長官，デ・バルガス内相及びロイ保険庁長官を更迭すべき旨述べた。

●３０日，ハビエル・サカリアス・イルン元エステ市長が率いる政党派閥は，２０１６年に予定されているコロラド党代表者会議メンバーの選出及び次期大統領選を視野にいれ，ベラスケス上院議長派閥と同盟を結ぶことで合意に至った旨発表した。

**（９）リベラル党の動向**

●１８日，当地主要紙は，党則を改定し，市長選挙及び総選挙の際に党を代表する被選挙人の資格を政党に属しない者（アウトサイダー）にまで拡大する立場を示しているリベラル党が，２０１５年のアスンシオン市長候補としてディエゴ・サバラ前商工相（リベラル党），ロベルト・ハリソン氏（企業家），マリオ・フェレイロ氏（元「前進する国家連合」大統領候補）を検討している旨報じたが，上記３名はリベラル党のアスンシオン市長候補となる意向はない旨表明した。

**２　外交**

**（１）パラグアイ外交における２０１４年優先事項**

●９日，ロイサガ外相は，国際場裏におけるパラグアイのプレゼンスを増大させることが２０１４年の外務省の優先事項であり，カルテス大統領の欧州及びアジアへの訪問を重視している旨述べた。また，同外相は，このような活動を通じ、諸外国との経済面での関係構築，新たな市場の開拓を追求したい旨述べた。更に，同外相は，カルテス大統領の２０１４年の外交日程にも言及し，ペルー，エクアドル及び日本への公式訪問が予定されている旨述べるとともに，メキシコ及び米国公式訪問の日程を現在調整中である旨述べた。

**（２）メルコスール関連**

＜第４６回メルコスール首脳会合関連＞

●６日，カルテス大統領は，パラグアイの次期メルコスール議長国への就任は重要ではなく，パラグアイがメルコスール関係会合に参加することに意義がある旨述べた。

●８日，ロイサガ外相は，パラグアイのメルコスール復帰について，メルコスール設立に携わった一国家としての当然の権利を主張するため，メルコスール内の重要な決定に関わるためである旨発言した。

●１６日，ロイサガ外相は，メルコスール首脳会合が，２月中旬に延期される可能性がある旨述べた。

＜メルコスール-EU・FTA締結交渉の再開＞

●１２日，ロイサガ外相は，メルコスール－EU・FTA締結交渉の再開時期について，１月末若しくは２月中旬となる可能性がある旨述べた。

＜ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書＞

●１４日，ロイサガ外相は，外務省において，ホセ・マルティンス当地ブラジル大使，アルフレッド･ムルガ次期当地ベネズエラ大使，エルネスト・デ・ラ・グアルディア当地アルゼンチン大公使，デボラ・セラ当地ウルグアイ大経済担当官立ち会いの下，ベネズエラのメルコスール正式加盟に関する議定書の批准書を寄託した。パラグアイ政府は，２００６年７月に同議定書に署名したが，２０１２年８月，上院において，同議定書の批准が否決され，その後，客年１２月，上下両院において，同議定書の批准が承認されていた。

＜その他＞

●２５日，政府は，メルコスール関係会合への参加を停止されていた間に採択された１８０件の決定等の内，パラグアイに対して不利な内容となっている以下６件の決定を公表した。①中小ミクロ企業設置に係る保証基金，②資本財に係る域外共通関税の改定，③ギアナ・メルコスール間協力，④スリナム・メルコスール間協力，⑤ボリビアのメルコスール正式加盟への手続き，⑥メルコスール準加盟国の参加に関する決定。

**（３）カルテス大統領のCELAC首脳会合出席**

●２８日，カルテス大統領は，第２回ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）首脳会合出席のためキューバを訪問し，同日，同首脳会合においてステートメントを行った。

●同大統領は，ステートメントにおいて，貧困及び極貧指数の削減に向けたパラグアイ政府の計画を強調するとともに，好調なパラグアイ経済の今後の課題は，いかにして好景気を維持するかであるとした上で，大規模な投資計画を発表した。また，公共教育のすべてのレベルにおける教育革命（Revolucion educativa）に引き続き取り組んでいく旨述べた。

●なお，同大統領は，先般，三度目の延期が発表されたメルコスール首脳会談等に関し，メルコスール加盟国首脳と会談することなく，また，パラグアイ石油公社（Petropar）のベネズエラ国有石油会社（PDVSA）に対する債務問題について，マドゥーロ・ベネズエラ大統領と協議することなく帰国した。

●同日，ロイサガ外相は，今後，CELACがOAS（米州機構）に取って代わりうるとのパティーニョ・エクアドル外相の発言に対し，パラグアイにとってOASは重要であり，パラグアイは一度として，OASをCELACで代用しようと検討したことはない旨述べた。

**（４）フィゲイレード・ブラジル外相の当国訪問**

●１６日，当国を訪問したフィゲイレード・ブラジル外相は，大統領府において，カルテス統領を表敬した。同表敬にはロイサガ外相，カセレス駐ブラジル大使，マルティンス当地ブラジル大使等が同席した。同表敬においては，先般の両国首脳会談でなされた各種合意についてのフォローアップが行われ，両国間の第２の橋（プレシデンテ・フランコ市-フォス・ド・イグアス間）の建設，両国間河川水路や鉄道による両国間アクセス等について話し合いが行われた。

**（５）ロイサガ外相のウルグアイ訪問**

●２４日，ウルグアイを訪問したロイサガ外相は，ウルグアイ外務省において，アルマグロ外相との会談を行った。同会談にはルイス・エンリケ・チャセ駐ウルグアイ・パラグアイ大使，フェデリコ・ペラッサ次期当地ウルグアイ大使等が同席した。同会談においては，第４６回メルコスール首脳会合の日程調整，本年６月に当国にて開催予定のOAS総会，２８～２９日にキューバにて開催されるCELAC首脳会合，パラグアイ－パラナ水路の利用拡大等について意見交換が行われた。

**（６）サハラ・アラブ民主共和国との国交関係断絶**

●政府は，３日付けの外務省プレスリリースを以て，サハラ・アラブ民主共和国との国交を断絶する旨発表した。同決定は，国連安保理決議に基づく和平プロセスが完了するまで維持される予定。

**（７）対中国及び台湾関係**

●９日，ロイサガ外相は，パラグアイ政府が中華人民共和国政府と外交関係を樹立する可能性についての記者団の質問に対し，右を否定した。中華人民共和国と台湾との協定によれば，台湾と外交関係を樹立している国に対し中華人民共和国は外交関係を樹立しない内容となっており，パラグアイ政府は右規定を尊重する旨述べた。また､パラグアイは，中華人民共和国と国交を樹立していないが，昨年の第一四半期には同国より約８億３千５百万米ドル輸入しており，輸入品目では重機器が目立っている旨述べた。

**（８）パラグアイ-台湾要人往来**

●１３日，台湾を訪問した上院議員は，台北において，馬英九総統を表敬した。同表敬において，馬総統は，客年９月２４日の国連総会において，カルテス大統領が，WHOなどの国連機関への台湾の参加に支持を表明したことに対し，感謝の意を述べた。

●１６日，当国を訪問したハウ・ロンビン台北市長は，大統領府において，カルテス大統領を表敬した。同表敬において，カルテス大統領は，インフラ分野等における台湾からの援助プロジェクトに対し，感謝の意を表明するとともに，今後も引き続き，教育，文化，貿易，投資の分野で協働していくことを希望している旨述べた。

**（９）新当地ベネズエラ大使及びエクアドル大使による信任状捧呈**

●１６日，アルフレッド・ムルガ新当地ベネズエラ大使及びエンリケ・ヌニェス新当地エクアドル大使がカルテス大統領に対し，信任状を捧呈した。２０１２年６月の議会によるルゴ大統領弾劾後，当地ベネズエラ大使及び当地エクアドル大使（当時）は本国に帰国していた。今次信任状の捧呈により，パラグアイと両国との二国間関係が完全に正常化したこととなる。

**（１０）在ベネズエラ・パラグアイ大使館の正式業務再開**

●１３日，２０１２年６月のルゴ大統領弾劾後，一時閉鎖されていた在ベネズエラ・パラグアイ大使館が，正式に業務を再開した。同大使館は，２０１２年６月の議会によるルゴ大統領弾劾後の同年１０月に，同大使館の館員が，ベネズエラ政府による国外退去の通告を受け，帰国して以来，閉鎖されていた。

**（１１）当地ベネズエラ大使館の正式業務再開**

●２０日，２０１２年６月のルゴ大統領弾劾後，一時閉鎖されていた当地ベネズエラ大使館が，正式に業務を再開した。ムルガ当地ベネズエラ大使は，正式業務再開に際し，今後，同大使以下，１０名の外交官で業務を行っていく旨述べた。

**（１２）パラグアイの原子力安全条約加入**

●９日，政府は，国際原子力機関（IAEA）に対し，原子力の安全に関する条約の批准書を寄託した。なお，同条約は本年４月９日に効力を生じる。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

**●**１３日，ピメンテル・ブラジル開発商工大臣（ロイサガ外相との会談等）

●１６日，フィゲイレード・ブラジル外相（カルテス大統領表敬）

**（２）往訪**

**●**２０～２１日,ロペス・モレイラ大統領府官房長官, ﾍﾞﾈｽﾞｴﾗ訪問（PEDVSAとの協議）

●２０～２１日, レイテ商工相，ベネズエラ訪問（PDVSAとの協議）

●２４日，ロイサガ外相，ウルグアイ訪問（アルマグロ外相との会談）

**●**２８～２９日，カルテス大統領，キューバ訪問（CELAC首脳会合出席）

●２９～３１日，レイテ商工相，ブラジル訪問（伯企業関係者との会合等）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(了)